

## 自分で聞いて分かったのです

ヨハネの福音書 4章 39-42節

### はじめに

イエス様とサマリアの女の出会いの出来事を学んでいます。このサマリアの女は、過去に五人の男と結婚しましたが、すべてうまくいわずに離婚してしまいました。そして現在は、六人目の男と結婚はせずに同棲しているという状態でした。彼女は、昼間の日差しが暑い時間に水がめを担いで、「ヤコブの井戸」に水を汲みに来ました。普通の人が水を汲みに来るのは、暑い日差しを避けた早朝か夕方であったようです。彼女は、人目を避けて昼間に水を汲みに来たのです。彼女の私生活は、サマリアの人々にも軽蔑されていたと考えられるからです。

しかし彼女は、「ヤコブの井戸」でイエス様に会います。そこでイエス様から、「生ける水」について、また「まことの礼拝」についての話を聞きます。また彼女の隠したい過去や現在の生活を、イエス様にすべて言い当てられてしまいます。そこで彼女は、イエス様こそ「キリスト」「メシア」ではないかと考えるようになりました。なぜならサマリア人にとって、「キリスト」「メシア」は、「一切のことを私たちに知らせてくださる」方、つまり何でも知っている方だからです。イエス様も彼女に、「あなたと話しているこのわたしがそれです」と、御自身が「キリスト」「メシア」であることを明らかにされたのです。

### 1. サマリアの女の証言

彼女は、イエス様が「キリスト」「メシア」であると分かると、町の人々の所に行って、「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのでしょうか」とイエス様のことを言い広めます。すると町の人々は、イエス様のもとにやって来たのです。39節を見ると、「その町の多くのサマリア人が、『あの方は、私がしたことをすべて私に話した』と証言した女のことばによって、イエスを信じた」とあります。サマリアの町の多くの人は、彼女のことばによってイエス様を信じるようになったのです。彼女のことばは、「証言」と呼ばれています。これは、「証し」ということです。サマリアの多くの人は、彼女の「証し」によって、イエス様を信じるようになったのです。

「証し」または「証言」というのは、「ある事実を、ことばで証明すること」です。彼女は、自分の「ことば」で、イエス様が「キリスト」「メシア」であることを証明したのです。彼女の「ことば」の内容は、「私がしたことをすべて私に話した」ということでした。

彼女はこれまで、人目を避けて生きていました。できるだけ町の人々と関わらないように生きていました。人々から彼女は軽蔑されていました。そのような彼女の「ことば」が、な

ぜ人々に受け入れられ、イエス様が「キリスト」「メシア」であることを証明できたのでしょうか。それは、彼女が明らかに変わったからではないでしょうか。これまで人目を避けて、人々とできるだけ関わらないで生きていた彼女が、人々に自分から話しかけて、積極的にイエス様を言い広めるようになった、この彼女の変えられた姿は、彼女の「ことば」に説得力を与えたのではないのでしょうか。

また彼女は、イエス様は「私がしたことをすべて私に話した」と人々に伝えました。彼女はここで、「私がしたこと」と言っています。彼女は過去に五人の男と結婚と離婚を繰り返し、現在は別の男性と同棲していました。彼女はこの事実を「私がしたこと」と言っています。過去に五人の男と結婚と離婚を繰り返していれば、「私がされたこと」と言っても良さそうなものです。ひどい旦那がいたから離婚したと、相手のせいにすることもできます。自分は悲惨な結婚の被害者だと思うこともできます。しかし彼女は、イエス様は、「私がされたことをすべて話した」のではなく、「私がしたことをすべて話した」と言っています。彼女はあくまでも、過去の不幸な結婚生活は、「私がしたこと」、私が招いた結果だと認めているのです。それはつまり、私の罪が、不幸な結婚生活を招いたと認めているのだと思います。彼女はもはや、人のせいにして生きるのではなく、自分の罪を見つめて生きているのです。彼女の「ことば」に説得力があったのは、自慢するような上からの「ことば」ではなく、自分の罪を認めて、へりくだった人の「ことば」だったからではないのでしょうか。

しかもイエス様は、彼女の過去の罪をすべて知っている方ですけれども、彼女を決して責めたり裁いたりはしませんでした。むしろ「女の人よ、わたしを信じなさい」(ヨハネ 4:21)と言って、「生ける水」について、また「まことの礼拝」について教えられたのです。彼女はイエス様に、過去の罪を受け入れてもらった、赦されたと感じたのでしょう。その喜びが、彼女の「ことば」には現れていたのではないのでしょうか。だからこそ彼女の「ことば」は説得力があったのではないのでしょうか。

彼女はこれまで、自分の過去の罪や現在の生活を、人々に触れられないように、また隠しながら生きていました。しかし彼女は、それらをイエス様に受け入れられ、赦されたことが分かったと、それを大胆に、包み隠すことなく人々に伝えるようになったのです。彼女は明らかに変わったのです。この変えられた彼女の「証言」「証し」の「ことば」は、人々に無視できないほどの興味を与え、強い説得力を持ち、イエス様こそ「キリスト」「メシア」であることを証明するものとなったのだと思います。

## 2. イエスの二日間の滞在

さて、イエス様のことを信じた多くのサマリアの人々は、イエス様に自分たちの所にしばらく滞在してほしいと願いました。するとイエス様は、二日間、そこに滞在することになりました。その結果、さらに多くのサマリアの人々が、イエス様を信じるようになったのです。そしてサマリアの人々は、彼女にこう言います。「**もう私たちは、あなたが話したことによって信じているではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。**」

イエス様は二日間、サマリアの町に泊まりました。この二日間、イエス様はサマリアの人々と多くのことを語り合ったと思います。その結果、さらに多くの人々がイエス様を信じるようになったのです。ヨハネの福音書の1章でも、バプテスマのヨハネの二人の弟子が、イエス様について行って、一晚、同じ所に泊まりました。すると弟子の一人は、「**私たちはメシア(訳すと、キリスト)に会った**」(ヨハネ 1:41)と言ったのです。イエス様と夜通し語り合って、彼らはイエス様が「メシア」「キリスト」であることが分かったのです。またルカの福音書に出てくるザアカイも、イエス様を自分の家に泊めて、夜通し語り合うと、「**主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します**」(ルカ 19:8)と言ったのです。イエス様と一緒に泊まると、みんなイエス様を信じて、変えられてしまうのです。それは、イエス様と長い時間、直接、語り合うからです。

サマリアの人々は、彼女の「ことば」によって、イエス様を信じました。しかしイエス様が町に滞在されたことによって、イエス様の「ことば」を直接聞いて、その信仰が強められていったのです。彼女の「ことば」で、イエス様は「キリスト」「メシア」だと分かりました。しかしイエス様と直接、語り合うことによって、イエス様は「世の救い主」だと分かったのです。「世の救い主」とは、「全世界の救い主」ということです。イエス様は、ユダヤ人だけの救い主でもなく、サマリア人だけの救い主でもなく、全世界の救い主であることが分かったのです。しかも、この「救い主」という言葉は、ある学者によれば、旧約聖書では神様そのものにしか使われない言葉だそうです。その意味で、イエス様こそ「救い主」だということは、イエス様こそ「まことの神」である、イエス様こそ全世界を救う「まことの神」であるということなのです。サマリアの人々は、彼女の「ことば」で、イエス様が「キリスト」「メシア」であることが分かりました。しかしイエス様の「ことば」を直接聞くことによって、イエス様のことがさらに分かり、イエス様こそ「全世界を救うまことの神」であることが分かったのです。

私たちは、人からイエス様のことを聞きます。人の「証し」や人の「説教」を通して、イエス様のことを聞きます。しかし私たちの信仰は、人の「ことば」によって支えられるのではなく、イエス様の「ことば」によって支えられなくてはならないと思うのです。サマリアの人々は、「自分で聞いて」「分かった」のです。イエス様の「ことば」を、自分で直接聞いて、イエス様が「全世界を救うまことの神」であることが分かるようになったのです。私たちの信仰は、最初は人の「ことば」を聞いて始まっていきます。しかし、自分でイエス様の「ことば」を直接聞かないと、私たちの信仰はなかなか実を結びません。

自分でイエス様の「ことば」を直接聞くととは、どういうことでしょうか。それは、自分で聖書を読むということだと思います。日曜日の礼拝で、人の「証し」や牧師の「説教」を聞くだけでは、私たちの信仰がイエス様の「ことば」によって支えられているとは言えないのではないのでしょうか。自分ひとりで聖書を読んで、自分とイエス様の関係をしっかり築かなければ、イエス様の「ことば」によって支えられているとは言えないのだと思います。そうでなければ、人につまずいてしまうと、自分もつまずいてしまうからです。イエス様は言わ

れました。「わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです」(ヨハネ 15:5)。私たちは、人を通してイエス様に繋がるのではなく、イエス様と直接繋がってなければなりません。そうでなければ、私たちの信仰は実を結ぶことができないのです。

### 3. サマリアの女とイエスのことばによって

もう一つ、今日の聖書箇所で覚えたいことは、サマリアの人々は、「ことば」によって信じたということです。39節には、「女の『ことば』によって、イエス様を信じた」とありますし、41節には、「さらに多くの人々が、イエスの『ことば』によって信じた」とあります。サマリアの人々は、彼女の「ことば」であれ、イエス様の「ことば」であれ、とにかく「ことば」によって信じたのです。決してイエス様の不思議な奇跡を見て、信じたのではないのです。

ヨハネ 2：23-24には、こうありました。「**イエスがエルサレムにおられたとき、多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。しかし、イエスご自身は、彼らに自分をお任せにならなかった**」。エルサレムにいた多くのユダヤ人たちも、イエス様を信じたのです。しかし彼らは、イエス様の行われた「しるし」を見て、イエス様を信じたのです。イエス様は、彼らに自分をお任せにならなかったのです。つまり彼らを信頼されなかったのです。イエス様は、御自分の不思議な奇跡を見て信じる人を、信頼されなかったのです。イエス様は、御自分の「奇跡」ではなく、「ことば」を信じる人を、信頼されるのです。その証拠に、イエス様は、御自分の「ことば」を信じるサマリアの人々のもとに二日間も滞在し、彼らと一緒に過ごしたのです。イエス様がサマリアの人々を信頼されたからではないでしょうか。

使徒パウロは、ローマ 10：17でこう言いました。「**信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです**」。私たちの信仰は、イエス様についての「ことば」を聞くことから始まり、イエス様の「ことば」を聞くことによって、支えられていくのです。イエス様は、不思議な奇跡ではなく、「ことば」を信じる人を、信頼されるのです。

### おわりに

イエス様とサマリアの女の出会いの出来事は、イエス様が彼女に「水を飲ませてください」と語りかけることから始まりました。そして、その結果、サマリアの町の多くの人々が、イエス様を信じるようになったのです。サマリアの女は、イエス様を求めて「ヤコブの井戸」にやって来たわけではありません。イエス様のもとにやってくる多くの方は、病気や様々な困り事を抱えてイエス様のもとにやって来ます。しかし彼女は、そもそもイエス様のことを知りませんでした。イエス様に何かを期待していたわけではありません。しかしイエス様が語りかけ、会話が進むうちに、イエス様を求めるようになり、イエス様を人々に証しするよ

うになり、多くの人々が彼女を通してイエス様を信じるようになったのです。

私たちは、イエス様を求めている人だけでなく、イエス様を求めていない人にも、イエス様を「証し」しなければなりません。イエス様を求めていない人に、イエス様への求めを起こさせるようにしなければなりません。私たちは、イエス様を求めている人を、ただ待っているだけではなく、イエス様への求めを起こさせなければなりません。そのためにイエス様が用いられるのは、私たちの「証言」「証し」です。「証し」とは、ある事実を、ことばで証明することです。私たちは、イエス様が神の子であり、救い主であることを、「ことば」で証明しなければなりません。私たちの「ことば」は、どのように説得力を持つのでしょうか。それは、私たちの変えられた姿と共に「ことば」を語る時、説得力を持ちます。また、上から教えるような「ことば」ではなく、自分の罪深さを認めて、へりくだった「ことば」を語る時、説得力を持ちます。また自分の罪深さを正直に告白し、それがイエス様に受け入れられた、赦されたという喜びの「ことば」を語る時、説得力を持ちます。

私たちは、イエス様やサマリアの女のように、求めを起こすクリスチャンでありたいと願うのです。そのために私たちは、イエス様の「ことば」に直接繋がっていなければなりません。人の「ことば」ではなく、イエス様の「ことば」に直接、支えられていなければなりません。そのようにイエス様の「ことば」を信頼して生きる人を、イエス様も信頼してください、その人の「証し」を用いてくださるのではないのでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは、世をさばくためではなく、世を救うために来られた救い主です。あらゆる人に心を閉ざしたサマリアの女の所へ行き、話しかけ、求めを起こさせ、彼女に生ける水を与えて、彼女を用いてサマリアの多くの人々を救われました。

イエス様は、御自身の「ことば」を信じる人を信頼され、用いられます。どうか私たち一人ひとりが、人の「ことば」ではなく、イエス様の「ことば」に生きることができるよう。そして私たちも、人に求めを起こさせるような「ことば」を語る者としてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。